

## 事業報告書 (令和 3 年度)

事業名 “心の温度を高める” 青少年 ESD 実践  
～学校間・地域間の対話と IoT を活用して～

団体名 NPO 法人国際協力研究所・岡山 (NPO ICOI) 担当者名 竹島 潤

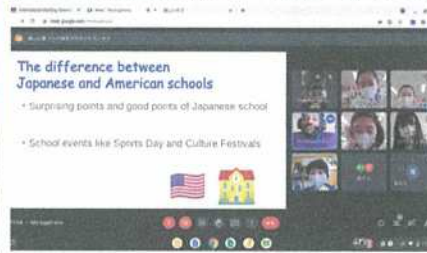
※活動の様子がわかる写真 (データもお願いします) と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容 (日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

#### ★国際協力・交流事業★

##### ①International Meeting 2021 (中学生オンライン国際交流事業)

【Summer】7/17 (土) NPO・学校間連携として、岡大附属中 (ホスト校)、操南中・高松中からの参加生徒約 25 名を対象に実施した。オンラインやスライド共同編集による事前打ち合わせを経てのオンライン交流には、国内外ご在住の海外ゲスト 10 名 (アメリカ、カナダ、インド、フィリピン、ラオス、タイ、マレーシア) が参加した。参加者は、英語を用いてアイスブレイク、各国紹介、日本との比較、ディスカッションなどに取り組み、多文化共生の視点を複数校かつ異学年の参加者と協働して高めることができた。



【Winter】12/18 (土) International Meeting Winter 2021 操南中 (ホスト校) をはじめ岡山市内 5 校から約 40 名が参加した。参加者は 10 カ国 13 名の海外ゲストと全体会、グループトーク (ブレイクアウト) で英語を用いてコミュニケーション活動を行った。前回 (夏) の反省点を生かし、実施時間を縮減し、オンライン会議システムの運営を NPO で行った。中学生たちからは、オンラインで学校・学年そして国を超えての交流ができたことへの興奮と感謝の思いが寄せられた。

##### ②International Friendship Program (「世界の友達」プロジェクト)

2/8 (火)・13 (土) 西大寺会陽 (はだか祭り) に向けた「水垢離行 (みずごりぎょう)」に在住外国人ゲストをご案内し、行の後に本堂での祈祷、本堂内見学を実施した。参加者はネパール、米国などの出身者。金隆山西大寺観音院ご住職とのご会談もさせていただき、在住外国人の方々が岡山市の歴史・伝統に触れることで、敬意と驚きを抱いてくれた。



##### ③“Friends in Need” プロジェクト

【ナマステ! 学生応援プロジェクト】6月18日～20日、新型コロナウイルス感染拡大下 (蔓延防止重点措置) の学生・留学生支援として、ネパール・インド料理店「タンドール パル」や地域学生団体あねもねとの協力下、3日間限定で実施した。1日50食限定の無料提供は予想以上に盛況で、1日目は約20分少々で渡しきることとなった。本プロジェクト3日間



でのべ 150 名強の大学生・留学生・大学院生・専門学校生・予備校生などの方々に、ご奉仕させていただきました。



### 【ミャンマーで今、何が!?～現地とのライブ中継～】

9月23日(木祝)、当NPO主催「緊急オンライン講演会」には、高校生・大学生・社会人約30名が参加した。冒頭に趣旨説明、動画・スライドにてミャンマー・軍事クーデターに関する概要を確認した。その上で、ゲスト講師及び現地ゲストより日本とミャンマーの関係、現地の現状をお話いただき、質疑応答も行った。特に現地ゲストのお話を通して、「市民不服従運動」が続く現地で、仕事も給料も住処も失う中でも、希望を棄てないご姿勢に感銘を受けた。日本にいる私たちにできることは何か、また連帯の思いと行動を重ね・広げていく必要性を強く感じる事ができた。

NGOCDI主催 緊急オンライン講演会  
**ミャンマーで今、何が!?**  
～現地とのライブ中継～

1. 日時  
令和3年9月23日(木祝) 19:30～20:30
2. 場所  
Zoomオンライン
3. 内容  
①ミャンマーの現状について(資料参照)  
②ミャンマーと日本のつながり  
ゲスト 達見一郎氏 Mr. ASAHARA Ichiro  
東洋経済大学/日本・ミャンマー友好議員連盟 会長  
③ミャンマー 現地から  
「Current Situation in Myanmar」 「ミャンマーの今」  
ゲスト S氏  
ミャンマー出身/現地の元大学教員  
【知るべきの大切な事!】  
【参加30名以内まで】  
参加費無料!

4. 参加申込 詳細は[www.ngocdi.com](http://www.ngocdi.com)をご覧ください  
en\_jpn@ngocdi.com TEL: 080-9284-6534 (TEL: 11)

### ★青少年育成事業★

#### ① “六六大順” プロジェクト

これまでに当NPO事業に連携・参画した経験を有する、岡山市内の複数中学校とともに、日中青少年友好交流について、学校と非営利セクターとの連携・協働事業の成果が共有された。今年度、新型コロナウイルス感染拡大下の諸事情で取り組めなかった現場からは、「ぜひ、来年度こそは取り組もう!」と、動機づけが高められた。他に「気候変動」をテーマに3月下旬に実施予定。

#### ② “シトラス!叶え!” プロジェクト



【ユースが夢を語る会】1/22(土) リーダーの立場にあるユース世代が、学校・校種を越えて意見交換した。4中学校&高校から6名の中・高校生と、前岡山市議会議員・浦上雅彦氏をゲスト講師に実施した。ミニ講演会「いま、ユース世代に伝えたいこと」とトークセッションを行い、後者では、「今、取り組んでいることとこれから取り組みたいこと」「参加しての気づき」など、参加ユースから活発な意見交換があった。

今回は新型コロナウイルス感染拡大予防により、急遽オンライン開催となったが、参加された皆さまから「とても充実した時間だった」「いい会だった」とのコメントが聞かれた。

#### ③ 「持続可能な新しい岡山市を市民で創ろう会」

8/28(土) 持続可能なまちづくりの視点から、ゲスト講師のミニ講演と質疑応答をパネルディスカッションとして実施した。オンラインと会場のハイブリッド実施とし、高校生・大学生などからの参加や意見も共有された。

### ★持続可能な環境づくり事業★

#### ① おかやま環境教育ミーティング

8月5日(木) 14時～16時、当NPOから実行委員として参加し、「第8回おかやま環境教育ミーティング」のオンライン初開催と中・高校生世代の参加を繋げることができた。ゲ



スト講師のニールセン北村朋子さん（デンマーク在住）と、持続可能な社会づくりを目指して「自然」「気候変動、エネルギー、公害」「教育、SDGs」の3テーマについて行った。

## ②東日本大震災追悼事業

11/4（金）夜、特別講演会「最後の一头まで見捨てない！！…被ばく牛と生きる、希望の牛飼い」を蔭涼寺にて一般参加者約20名の参加で実施した。福島県双葉郡浪江町「希望の牧場・ふくしま」吉沢正巳代表から、10年目を迎える今の思いを熱く語っていただいた。報道や「復興」の言葉で語られるのとは異なる現実もご共有いただいた。参加者の多くからコメントや感想をいただき、さらに深く感じ考えることができた。



## ③東日本大震災現地ボランティア活動

12/28（火）午後～12/31（金）早朝 第14次現地活動を実施した。被曝牛約230頭を飼育し続ける「希望の牧場」の運営形態や今後の見通しなどについて、参加者で情報共有した。フィールド・スタディとして、浪江町請戸地区や棚塩地区を再訪し、震災当日の様子やその後の“復興”の現実について、自らの五感を通して学んだ。後日、岡山市内複数公民館にて、「ふくしまボランティア岡山隊第13次現地ボランティア活動報告会 ～2年ぶりに現地を見た 変わるもの・変わらないもの」を開催した。初参加の中学生や社会人の方々や質疑応答も行った。2011年3月11日の報道から始まり、浪江町をはじめ旧警戒区域や帰還困難区域の様子、被ばく牛の実態などの現実をご共有させていただいた。



## 2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

好事例を複数の教育現場や非営利機関と共有することで、学校間・地域間の対話を生み出そうとすることができた。また、テーマに「平和」「環境」「主権者」「国際」などの持続可能な社会づくりにおける課題を設定することで、ESDの意識が向上できるように高めた。新型コロナウイルス感染拡大下でも、取り組みや学びを休止するだけでなく、オンラインや分散・縮小して実施するなど、持続可能な取組を目指すこと自体もESD視点の試みとなった。

## 3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

新型コロナウイルス感染拡大下において、学びや交流が大きく影響を受けたのは青少年世代だとも言えるであろう。よって、本事業が学校、非営利セクター、中・高校生などを繋ぎながら、ESD視点のテーマについて現地・現場・当事者と関わり合いながら継続できたことは、本市におけるESD実践に貢献できたと考えている。

## 4. 今後の課題と展望

より多くの学校や地域を巻き込んだ対話事業を考えていたが、新型コロナウイルス感染拡大下の対応や考え方も多様であり、忸怩たる思いでの実践となった。しかし、「国際」「青少年育成」「環境」のテーマに基づき、参加者の「心の温度」を高めることに微力ながら貢献できたと確信している。今後も、教育現場やユース世代、非営利セクターのゆるやかな繋がりを生かした、当NPOならではの事業に取り組み、本市におけるESD for SDGsに貢献できればと考えている。